



水色通信

2011年冬号 Ver. 2



【爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳】

爺ヶ岳は南峰、主峰、北峰と3つのピークを持つなだらかな山容、鹿島槍ヶ岳は南峰、北峰の急峻な双耳峰が目立つ山容である。

(2010年12月初旬 大町市社より撮影)



信州の味

やしろうま



お釈迦様の命日とされる旧暦の2月15日(現3月15日頃)に「涅槃会(ねはんえ)」と呼ばれる法要が行われます。そのときお供えされるお菓子が「やしろうま」です。

「やしろうま」は、米の粉で作った金太郎飴のようなもので、食紅等で色付けしたパーツを組み合わせ、様々な草花や花木の模様を描きます。それを約1cm程度に切り分け、お餅と同じように焼いてタレなどをつけて食べます。「やしろうま」は信州に昔から伝わるお菓子であり、おやき

と並ぶ「郷土食」と言えるでしょう。

筑北村の「坂井郷土食研究会」では、「やしろうま」を手作りし村内の直売所(まんだらの庄)で販売しています。2月の最盛期には地元の女性達がほぼ毎日作っており、各所から講習の依頼があるそうです。



坂井郷土食研究会にて撮影

筑北村「まんだらの庄」：TEL 0263-67-2222

☆☆☆ 取材にご協力頂いた坂井郷土食研究会の皆様、ありがとうございました ☆☆☆

土壌汚染対策法

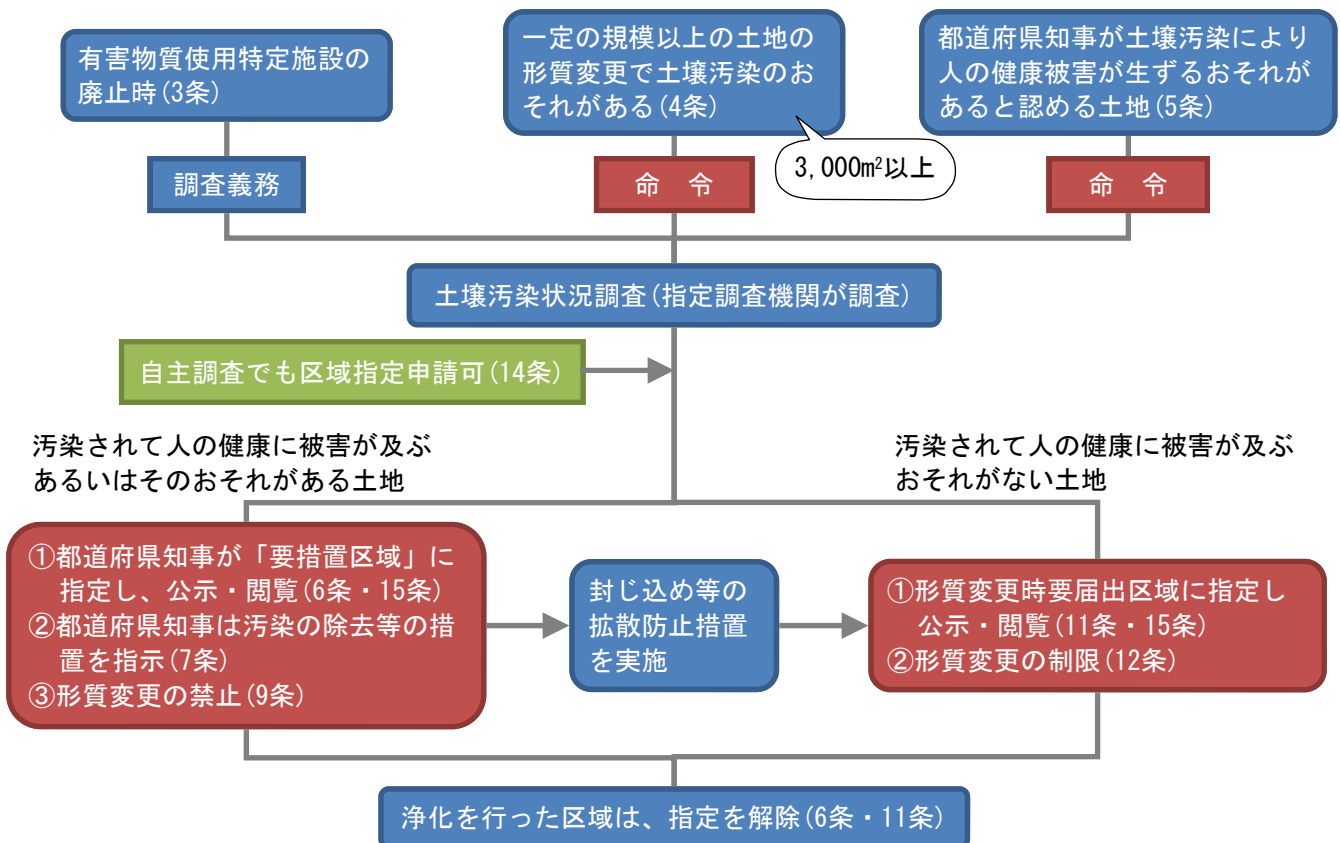
土壌汚染対策法が改正されました。その意図は、

- ①旧法による土壌汚染調査は累計7000件の5%で、ほとんどは自主調査でかつ掘削除去が主流になったこと。
- ②汚染があると認められた区域の分類と、指示措置の明確化→土地の利用を促進する。
- ③汚染土壌の運搬・処理のルール化と許可制。

などです。

以下に改正法のしくみを要約して示しました。

【改正 土壌汚染対策法のしくみ】 2009年改正、2010年4月施行



■ : 都道府県知事の手続き

【汚染土壌の搬出等に関する規制】

- ・ 区域内土壌の搬出規制(事前届出、計画の変更命令、運搬基準等)
- ・ 管理票の交付及び保全の義務
- ・ 処理業の許可制度

信州水めぐり



大名町 大手門井戸

水めぐりの井戸整備事業で最初に掘削された井戸です。大手門駐車場の脇にあり、バスで訪れた観光客などに親しまれています。

住所：松本市大手3-2-27 大手門駐車場横
竣工：平成18年

雪は減っているの？

「長野県の冬の景色と言えど？」と聞かれて、皆さんは何を想像するでしょうか？澄みきった青空にそびえ立つ「雪山」がその一つに思い浮かぶでしょう。雪山は地下水にとっても重要な役割を持ち、春先の雪融け水は地下水の涵養源となります。近年、積雪はどうなっているのでしょうか？

気象庁の気象データを基に「最深積雪※」をまとめました（図1参照）。各地点ともほぼ横這い傾向ですが、10年前の2000年あたりから変動幅が大きいうちに見て取れます。気象庁の100年後予測では、「東北地方以南では雪の量が減る。これは気温の上昇によって雪ではなく雨が降る場合が増えるため。」とされています。

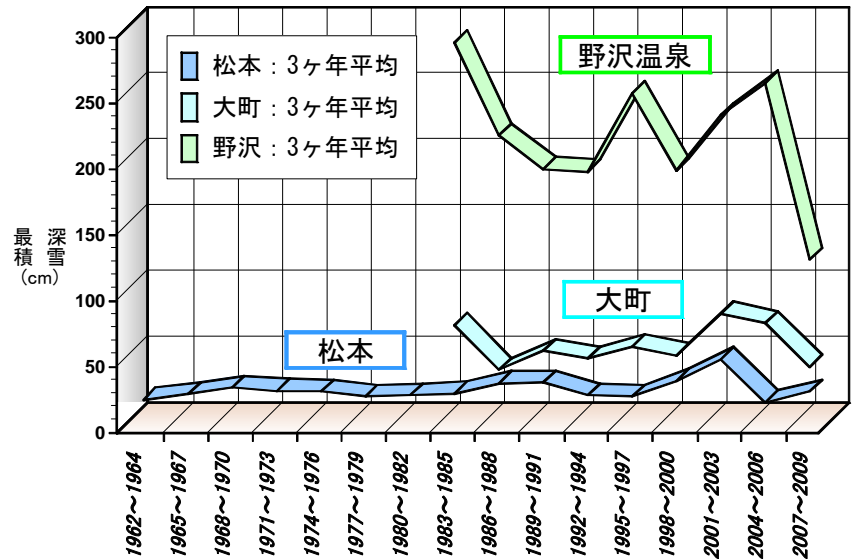
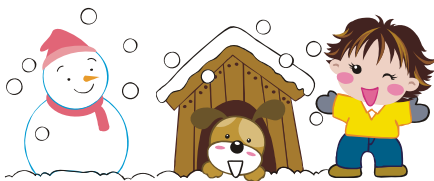


図1 最深積雪の経年変化

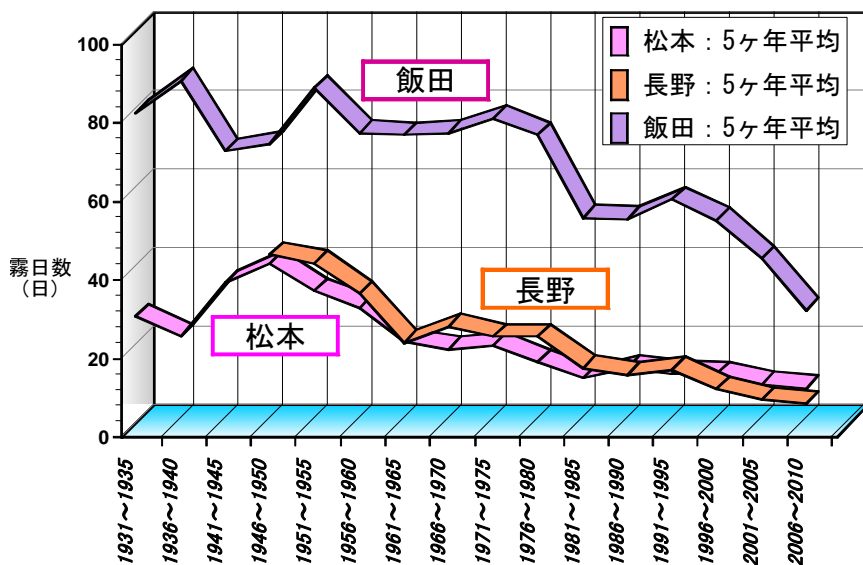


図2 年間霧発生日数の経年変化

気象データのなかで「霧の発生日数」というものがあるのをご存じですか？データをまとめたら意外な傾向が見られました（図2参照）。

長野と松本はほぼ同程度の発生日数で経年では減少傾向を示し、南部の飯田では1980年（30年前）ころから減少傾向を示し、現在ではほぼ半数程度に減少しています。減少傾向は京都、大分などでも見られ、都市化の影響による地表面から供給される水分量の減少と、日最低気温の上昇などの影響とされています。

長野県から雪山がなくなることはまずないとは思いますが、雪の量が減り雪融けが早まることで、雪山を見られる期間が短くなる可能性はあるのではないのでしょうか。

※ 積雪の最大値。ここでは寒候年(前年秋～当年春)の値を使用。

参考：気象庁「地球温暖化に関する知識」

<http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/portal/chishiki_ondanka/pdf/all.pdf>

バイオウェザーサービス「異常気象を追う 第16回 盆地の霧」

<<http://www.bioweather.net/column/essay2/aw16.html>>

新 松本・安曇野 宝かるた



越冬の コハクチョウ見に 家族連れ

安曇野の白鳥の湖（犀川ダム湖）、御宝田遊水池には、毎年沢山のコハクチョウが越冬のため飛来します。また、雪の北アルプスを背景にコハクチョウを撮影しようと沢山の写真家も訪れます。

地下水と共に60年

卯年生まれの私は、今年が年男。まだ老け込む年齢ではありませんが、歳月が加速をつけて過ぎていくのが改めて感じられます。

弊社も設立以来、昨年10月に満60周年を迎え、気を引き締めて新たな第一歩を踏み出したところです。

当社は「地下水」に関する事業者として、今後も「地下水」に拘ったビジネスモデルを展開し、輝きを増していく所存です。

年末のTVで、経済力を増した中国企業が日本の各地で山林を買い漁っているというニュースを見ました。中国とは違い、土地の所有権を持てる日本に魅力があるようですが、木材や貴重な動植物の生息地、そしてなによりも豊富で水質のよい地下水脈を狙っての投資であるという話でした。

日本は世界的にみれば地下水が豊富で、水資源の重要性があまり意識されなかった時代もありましたが、今や牛乳より高いペットボトル入りのミネラルウォーターを誰もが買う時代です。井戸関連の仕事をしていても、地下水についての権利意識は格段に高まっています。今世紀中に始まる世界的な水の争奪戦。血生臭い争いは嫌ですが、当社が長年培ってきた地下水探査、掘削技術は、益々輝きを増す時代になったと考えています。



(株)サクセン 代表取締役 高橋作夫

おしらせ

ホームページを全面的にリニューアルいたしました。井戸・温泉の掘り方やメンテナンスの方法、地質調査・土壌汚染調査の方法などレア情報が満載です。

また、リンクサイトも充実しています。もちろん過去の水色通信もご覧いただけます。

サクセン

発行元

株式会社 サクセン 60th

季刊 水色通信 編集部

〒390-0833長野県松本市双葉6番1号

TEL: 0263-25-1802(代表)

FAX: 0263-25-9642(代表)

http://www.sakusen.co.jp/

